

2023年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年2月8日

上場会社名 株式会社 ロブテックス
コード番号 5969 URL <https://www.lobtex.co.jp>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 地引 俊為
問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員 管理部長 (氏名) 森下 幸治
四半期報告書提出予定日 2023年2月10日
配当支払開始予定日
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
TEL 072-980-1110

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	4,330	4.3	345	23.2	357	22.6	221	30.7
2022年3月期第3四半期	4,523	22.4	280	215.1	291	155.8	169	201.0

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 241百万円 (23.3%) 2022年3月期第3四半期 196百万円 (45.6%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	118.70	
2022年3月期第3四半期	90.78	

(注) 当社は2023年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、「1株当たり四半期純利益」を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	8,298	4,638	53.1
2022年3月期	8,307	4,467	51.1

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 4,410百万円 2022年3月期 4,241百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期		0.00		60.00	60.00
2023年3月期		0.00			
2023年3月期(予想)				30.00	30.00

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

2. 2023年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合で行った株式分割後の期末配当金となります。なお、2022年3月期については株式分割前の配当金となっております。

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,570	7.7	470	22.5	490	25.1	290	29.0	155.27

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無: 無

2. 2023年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。そのため2023年3月期の業績予想における1株当たり当期純利益については当該株式分割後の金額を記載しております。

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期3Q	2,000,000 株	2022年3月期	2,000,000 株
期末自己株式数	2023年3月期3Q	132,586 株	2022年3月期	132,288 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期3Q	1,867,586 株	2022年3月期3Q	1,867,743 株

(注)2023年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っており、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し算定しております。

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料の3ページ「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間の我が国経済は、新型コロナウイルス感染症対策により、正常化に向けた動きが見られる一方で、原油や資材価格高騰・ウクライナ情勢等の影響もあり、まだまだ不透明な状況で推移しました。

このような状況の下、当社グループでは経営ビジョン「モノづくりのプロにゆえ、モノづくりの楽しさを育む」、経営スローガン「私たちは工具を通じ、あらゆるモノづくりの要求に応えるとともに、つくる楽しさを伝え広げる事で社会に貢献します」の発信と浸透を更に進め、経営課題である「業務の整流化を徹底し、利益体質の強化を図る」を追求し、経営目標達成に向け努力してまいりました。

そして、その経営ビジョンを押し進めるにあたり、経営課題の解決に向けた機能的な組織への変更を2022年4月に実施しました。

管理本部においては、ITシステム部を新設いたしました。従来の情報システム部門と営業企画のデータ管理部門並びに業務部を統合し、データ利用・活用を行い、顧客価値創造を重要テーマに、ITを駆使して対応に努めました。

モノづくり事業本部においては、購買部門を購買部として独立させ、取引先様との連携強化と新規取引先探索を行い、安定供給と適正価格及び品質を確保した調達に取り組みました。

営業部門(営業企画部・第一営業部・第二営業部)については、売上至上主義から利益確保への意識付けを進め、粗利益・売上レポート・販売費を徹底的に管理し、利益追求型の営業部隊へ移行を進めました。これまでの営業部で分類していた販売ルートをより現在の市場に合わせた組織に変更しました。中でも新設したストアセールスチームについては、ホームセンターとともにプロショップ等、店舗展開している販売先への強化を図ることで、エンドユーザーに寄り添った活動を進めてまいりました。

また、モノづくりの合理化を図るべく、製造拠点である鳥取ロボスターツール株式会社にはモノづくり合理化推進室を新設し、合理化推進と新規事業の検討を行いました。

なお、経営課題であります“利益体質の強化”を図るべく、現状課題については各種プロジェクトを発足し部門横断的に解決策を検討、実務部門に展開を進めました。また、未来を見据えた目指すべき将来像を描くために各種会議体を開催しています。

その結果、売上高は前年同期比4.3%減の43億3千万円(前年同期45億2千3百万円)となりましたが、利益面では売上原価率の改善及び販売費の効率的な活用により、営業利益では同23.2%増の3億4千5百万円(同2億8千万円)、経常利益では同22.6%増の3億5千7百万円(同2億9千1百万円)、親会社株主に帰属する四半期純利益では同30.7%増の2億2千1百万円(同1億6千9百万円)となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

(金属製品事業)

国内売上は、ファスナー関連の商品において、前年の大型物件分をカバーするだけの販売数量に及ばず、また、販売先において、ホームセンターでは一服感があり、減少しました。

一方、海外売上では拡販努力により主要販売先国である韓国向けが伸長し、増加しました。

また、原油や資材価格の高騰などによる商品原価の上昇への対応については、生産効率の向上、各種経費の節減実施に加え、価格改定を2022年1月度より実施しました。

その結果、金属製品事業の合計売上高は前年同期比4.3%減の41億2千万円(前年同期43億7百万円)となりました。セグメント利益については売上原価率の改善及び販売費の効率的な活用により増益となり、同37.2%増の2億3千6百万円(同1億7千2百万円)となりました。

(レジャー事業)

ゴルフ練習場における売上高は、コロナ禍においても感染対策を講じた上での営業継続に加え、サービス向上や集客施策、価格改定を実施してきました。しかしながら、例年以上の今夏の暑さの影響と新型コロナウイルス感染症の落ち着きにより、特需の一服感もあり、お客様一人当たり売上高は横ばいとなるものの入場者数が減少した結果、前年同期比2.8%減の2億1千万円(前年同期2億1千6百万円)となりました。セグメント利益については経費節減に努め微増、同0.8%増の1億9百万円(同1億8百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は82億9千8百万円となり、前連結会計年度末に比べ8百万円減少しました。

(資産)

流動資産は前連結会計年度末比4千8百万円増の57億円となりました。これは主に現金及び預金や受取手形及び売掛金が減少する一方で、棚卸資産や電子記録債権が増加したことによるものです。

固定資産は同5千6百万円減の25億9千8百万円となりました。これは主に建設仮勘定や退職給付に係る資産が増加する一方で、減価償却による有形固定資産の減少があったことによるものです。

(負債)

流動負債は前連結会計年度末比1億7千5百万円減の22億7千4百万円となりました。これは主に短期借入金が増加する一方で、未払法人税等や買掛金が減少したことによるものです。

固定負債は同4百万円減の13億8千5百万円となりました。これは主に長期借入金が増加する一方で、リース債務が減少したことによるものです。

(純資産)

純資産は前連結会計年度末比1億7千1百万円増の46億3千8百万円となりました。これは主に利益剰余金において配当支出による減少がある一方で、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による増加があったことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期業績は、概ね当初に想定した範囲内で推移しており、2022年5月12日に発表いたしました業績予想に変更はありません。

なお、業績予想につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,857,236	2,652,764
受取手形及び売掛金	1,007,125	873,401
電子記録債権	242,563	263,382
商品及び製品	955,200	1,139,875
仕掛品	298,913	369,201
原材料及び貯蔵品	223,371	298,974
その他	74,001	108,494
貸倒引当金	△5,743	△5,285
流動資産合計	5,652,669	5,700,809
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	829,296	774,633
土地	673,026	673,026
その他(純額)	416,179	409,895
有形固定資産合計	1,918,502	1,857,556
無形固定資産	34,975	27,351
投資その他の資産	701,551	713,192
固定資産合計	2,655,030	2,598,099
資産合計	8,307,699	8,298,909

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	316,932	271,271
短期借入金	1,492,504	1,541,204
1年内償還予定の社債	30,000	—
未払法人税等	131,587	23,764
その他	479,558	438,444
流動負債合計	2,450,582	2,274,684
固定負債		
長期借入金	1,173,778	1,200,375
退職給付に係る負債	71,620	74,300
その他	144,578	110,968
固定負債合計	1,389,976	1,385,644
負債合計	3,840,559	3,660,329
純資産の部		
株主資本		
資本金	960,000	960,000
資本剰余金	491,045	491,045
利益剰余金	2,785,243	2,950,900
自己株式	△164,155	△164,516
株主資本合計	4,072,133	4,237,430
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	169,370	172,682
その他の包括利益累計額合計	169,370	172,682
非支配株主持分	225,635	228,466
純資産合計	4,467,139	4,638,579
負債純資産合計	8,307,699	8,298,909

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	4,523,421	4,330,524
売上原価	3,046,981	2,825,204
売上総利益	1,476,439	1,505,319
販売費及び一般管理費	1,195,734	1,159,588
営業利益	280,705	345,731
営業外収益		
受取配当金	11,532	16,829
助成金収入	9,089	16
その他	9,389	11,791
営業外収益合計	30,011	28,637
営業外費用		
支払利息	18,038	16,327
その他	1,483	912
営業外費用合計	19,522	17,239
経常利益	291,194	357,129
特別損失		
ゴルフ会員権評価損	—	2,550
特別損失合計	—	2,550
税金等調整前四半期純利益	291,194	354,579
法人税等	93,492	115,958
四半期純利益	197,702	238,621
非支配株主に帰属する四半期純利益	28,145	16,933
親会社株主に帰属する四半期純利益	169,556	221,688

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	197,702	238,621
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,632	3,209
その他の包括利益合計	△1,632	3,209
四半期包括利益	196,069	241,831
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	168,832	225,001
非支配株主に係る四半期包括利益	27,237	16,830

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間（自 2021年4月1日 至 2021年12月31日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	金属製品事業	レジャー事業	計			
売上高						
外部顧客への売上高	4,307,264	216,156	4,523,421	—	4,523,421	4,523,421
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	4,307,264	216,156	4,523,421	—	4,523,421	4,523,421
セグメント利益	172,161	108,543	280,705	—	280,705	280,705

(注) 1 当社には、報告セグメントに含まれない事業セグメントはありません。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

II 当第3四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年12月31日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	金属製品事業	レジャー事業	計			
売上高						
外部顧客への売上高	4,120,421	210,102	4,330,524	—	4,330,524	4,330,524
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	4,120,421	210,102	4,330,524	—	4,330,524	4,330,524
セグメント利益	236,266	109,465	345,731	—	345,731	345,731

(注) 1 当社には、報告セグメントに含まれない事業セグメントはありません。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。